

# 「復興の主体は地域」

## 長崎大・山下科長らが報告

市の同大医学部で活動報告会を開いた。2人は「復興には長い時間がかかる

東日本大震災の被災地に派遣されていた長崎大の医歯薬学総合研究科の山下俊一科長と熱帯医学研究所の山本太郎教授が6日、長崎

が、主役は地域の人たち。私たちはその力を支えていく必要がある」と訴え

た。山下科長は、福島県で被ばく医療の専門家として

て住民に対する放射線に関する説明会などを続けている。原発から半径30



東日本大震災の被災地での活動の様子を語る長崎大の山下俊一科長(右)と山本太郎教授

キロ圏外でも高い放射性物質が検出されている地域があり、住民が不安を訴えていることに触れ「国は同心円状で避難指示の範囲を決めずに見直すべきだ」と

指摘した。

さらに長期間の環境モニタリングや住民の健康診断が必要とした上で、「放射線のリスクコミュニケーションができる人材を育成することも重要だ」と話した。

山本教授は岩手県釜石市や大槌町の避難所で、医療支援活動を行った。風邪や胃腸炎、インフルエンザを発症する人が多

く、「感染症のまん延や運動不足が心配されたため、手洗いやうがい指導、朝のラジオ体操を始めた」と語った。